

## 心理学部 3つのポリシー

### ディプロマ・ポリシー

心理学部では、心理学及び関連領域に関する専門的知識や技能を幅広く身につけることで、犯罪や非行を始めとする地域社会における諸問題の解決、地域住民の精神的健康の維持と福祉の増進、地域における子どもたちの健やかな発達の促進、及び地域の企業活動に貢献できる人材を育成します。

具体的には、本学ディプロマ・ポリシーに掲げる「駿大社会人基礎力」を身につけることのほか、下記の専門的知識や技能を修得し、活用できることを目標とします。

#### 1.心理学の専門知識と技能の修得

心理学の基礎及び応用に関する知識と技能を幅広く身につけ、人間や社会に関心を持ち、自ら必要な知識や情報を収集することができます。

#### 2.心理学的な理解力と分析力の修得

実験、調査、観察、検査、面接といった心理学測定法を用いて、人間行動及び社会の諸現象についての情報を収集し、統計解析することができます。

#### 3.心理学関連領域の専門知識の修得

心理学関連領域の専門知識を修得し、人間及び社会について多面的に理解することができます。

#### 4.現実社会での諸問題に能動的に関わる能力と姿勢の修得

精神的健康に関する問題、犯罪や非行を始めとする社会病理に関する問題、親子関係などを含む子どもの発達に関する問題などに関心を持って取り組み、自ら課題を発見し、その解決を目指して専門的知識や技能を活用することができます。

### カリキュラム・ポリシー

心理学部では、本学カリキュラム・ポリシーに基づき、心理学専門教育の科目を体系的に配置します。同時に、公認心理師の受験要件を満たすことのできるカリキュラム編成とします。

講義科目は、その内容を考慮して適切な学年に配置します。また、1・2年次に「プレゼミナール」、3・4年次に「ゼミナール」を開講し、すべての学生が4年間を通じて少人数のゼミナールに所属します。さらに、「心理学実験」、「面接演習」などのアクティブ・ラーニング等、主体的関与と相互交流を促進する手法を取り入れた科目を多く開設します。

また、科目ナンバリングやカリキュラムマップによって、科目の難易度、科目間の関連、基礎から専門への展開が理解できます。これにより、学生はカリキュラム体系を意識しながら学習を進めることができます。

#### 1.教育内容

## (1)導入教育

1年次には導入教育を重視し、必修科目「人間研究の視点」では人間を研究する際の基本的視点や姿勢を、「プレゼミナール」では大学での学びの姿勢を身につけます。なお、「プレゼミナール」では可能な限り個別の事情等を勘案しながら授業を実施していきます。

## (2)語学教育

グローバル社会の共通言語である英語を必修とし、1・2年次において集中的に学習します。習熟度に基づくクラス編成を行い、確実な英語力の修得を図ります。また、英語以外の外国語は選択科目として履修することができます。

## (3)心理学の研究方法に関する教育

1年次には、コンピュータの使用法を修得するための「コンピュータ・リテラシー」を、能力別クラスを編成して開設しています。2年次には、「データ分析Ⅰ（心理学統計法）」においてデータ分析と統計学の基礎的な知識と技能を習得します。さらに、2年次以降に開設されている心理学の研究方法に関する授業では、心理学研究の実施に必要な知識を自ら体験しながら学びます。

## (4)心理学に関する基礎教育

心理学全般を広く把握することのできる概説科目と、専門科目のうちでも基本的と考えられる科目については、1年次から履修可能です。心理学の様々なトピックスへの興味や心理学全体への関心を深めることで、自己の関心や興味がどの領域にあるかを意識することができます。これにより、2年次以降の専門科目選択、2年次のコース選択、3年次のゼミナール選択をより適切なものとすることができます。

## (5)心理学に関する専門教育

2年次からは、自らの興味や関心に合致した学習を展開できるように、「臨床の心理コース」、「犯罪の心理コース」、「子どもの心理コース」の3コースを設けています。問題意識や興味、関心に合致したコースを選択し、専門的な学習を深めることができます。

## (6)関連領域教育

(1)～(5)とは別に、「心理学基礎科目」には、社会学、人類学、宗教学、精神医学などの心理学に関連の深い分野の科目も設置しています。これにより、人間行動や社会の諸問題を多面的に捉える姿勢と力を身につけることができます。

## (7)キャリア教育

キャリア教育を1年次より開始し、心理学教育と並行して自立した社会人となるための教育を行います。これにより、心理学を実社会で活かしていくための方向性を見出すことができます。

## (8)卒業研究

4年間の学習の集大成として、それぞれの問題意識や興味、関心に基づいて卒業研究を行います。これについては、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」の中で継続的に指導が行われ、4年次

の秋学期に研究成果をまとめます。

## 2.教育方法

### (1)少人数によるゼミナール形式による教育

1・2年次は「プレゼミナールⅠ～Ⅳ」、3・4年次は「ゼミナールⅠ～Ⅳ」において、ひとりひとりの個性、資質、興味、関心等に配慮し、きめ細かい教育を行います。学生は、他の学生や教員との関わりの中で、主体性や行動力、実行力を身につけ、課題発見能力や問題解決能力を向上させます。

### (2)体験型授業科目

心理学部では、「コンピュータ・リテラシー」、「データ分析」、「心理学実験」、文献講読、心理検査や心理療法に関する演習など、多くの実習あるいは演習形式の体験型科目を設置し、アクティブ・ラーニングを実施します。

### (3)双方向型授業

体験型の授業科目のみならず、講義科目においても、バズセッション、討議、小テスト、リアクションペーパーなどを用いて、可能な限り双方向型授業を取り入れ、学生の主体的関わりを促進します。

## 3.評価

心理学部では、本学ディプロマ・ポリシーに掲げられている「駿大社会人基礎力」と専門的知識や技能の活用力の修得状況の評価を、①駿大社会人基礎力の到達度の確認、②各科目のシラバスに定める成績評価、③卒業研究の成果把握、によって総合的に行います。個々の科目の成績評価については、学習の到達目標を明示し、多様な評価項目を異なった比重で評価します。評価に際しては、獲得した知識の質と量だけでなく、様々なスキルを査定して、最終の成績評価に活用します。

また、学生には、成績評価の最終的結果をフィードバックするだけでなく、授業の過程においても、レポート等の添削結果の返却、コメントペーパーの配布、模範解答の配付などの方法により、達成度や評価に関して、適宜フィードバックします。卒業研究については、主査及び副査による総合評価を行い、複数教員が統一されたチェック・リストに基づいて評価することで、公正性を担保します。

## アドミッション・ポリシー

養成する人材像や教育課程をふまえ、以下の方針により多様な入試方式で入学者を選抜する。

- (1) 高等学校までの基礎的な知識や技能を身につけている。
- (2) 論理的思考力を持ち、自分の考えをわかりやすく表現することができる。

以上のような入学者を選抜するために、学力試験、面接試験、書類審査、模擬授業及び課題

審査等を取り入れた多様な入試を実施します。

[2021年4月改定]